

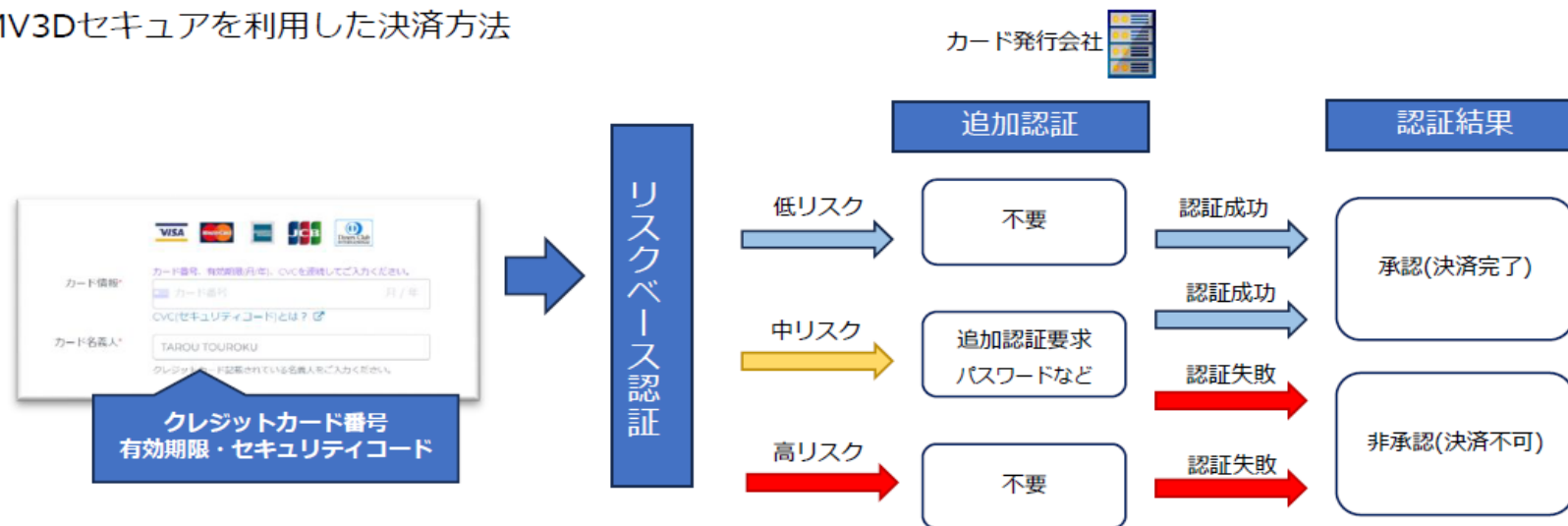
EMV3Dセキュアを利用した決済方法

- クレジットカード情報の盗用による「なりすまし」などの不正利用を防止
- 国際標準仕様となる世界共通の本人認証

従来の決済方法



EMV3Dセキュアを利用した決済方法



EMV3Dセキュアにの義務化によるシステムへの影響

カード決済における3Dセキュア認証機構の構築

- カード決済情報入力後にカード会社の認証画面へ遷移
- カード会社の認証後(承認・非承認)に再度システムへ遷移

カード決済支払いロジックの改修が必要



EMV3Dセキュア（3Dセキュア2.0）を導入するメリット

3Dセキュア2.0の導入は、利用者・加盟店・クレジットカード発行会社それぞれにメリットをもたらします

不正利用のリスクを低減

3Dセキュア1.0まではパスワードやIDのみで本人認証を行っていたため、それらが流出してしまうと不正利用が発生するリスクがあり、セキュリティ性の強化が大きな課題でした。

新たに開発された2.0は、従来の認証方法だけでなく、生体認証やワンタイムパスワードが追加されています。それらはパスワードやIDなどとは違い改ざんや盗難が起こりにくいため、不正利用のリスクを大幅に削減できます。

途中離脱の軽減

3Dセキュア1.0はすべての決済で認証を行う必要があるため、「パスワードを忘れた・入力に手間がかかる」などの理由で購入をやめてしまうケースが少なくありませんでした。

そのような課題を受けて、2.0には、不正利用の疑いがある決済のみ認証を行うシステムが搭載されています。従来よりも追加認証を求める頻度は減ると推定されており、よりスムーズに決済を完了でき、購入時の途中離脱を軽減できると期待されています。

決済時の入力負担軽減

3Dセキュア2.0では、「リスクベース認証」という認証方法を採用しています。リスクベース認証とは、クレジットカード決済を行う人が使用しているデバイスや、配送先の住所などのリアルタイムの情報を分析し、なりすましのリスクを判定する仕組みです。

今までの認証システムで決済をするとき、IDを何度も入力したり忘れてしまったパスワードを再発行したりする無駄な作業が発生し、負担を感じたことがある人も多いのではないのでしょうか。3Dセキュア2.0は分析結果をもとに不正利用の可能性が高いと判断した場合のみ追加認証を求めるため、一般的な利用者はスムーズに決済を進められます。